ウィーン巡検
―記憶を維持する街―

現代ウィーンの市街地は歴史とともに生き続け，そこには過去の記憶が強く意識されています。かつてのハプスブルクの帝都で知られるウィーンにおいて，今もなお帝国時代の景観がひときわ目立つのも，過去がこの町の現在に欠かせないからでしょう。実際，歴史的旧市街地のバロック建築は圧巻です。旧王宮をはじめ，どの建物も整備の手が行き届いています。ウィーンを訪れる観光客のほとんどがこの旧市街地で過ごすのも，こうした歴史ある町並みを見れば十分にうなずけます。

ただ，これほど美しい町並みになったのは，意外にも最近のことにすぎません。東欧の改革とともにプラハやブダペストなど近隣の都市の景観整備が進むと，それまで西ヨーロッパの東端にあったこの町でも町並みに手が加えられました。使われずに放置されていた歴史的建造物が急遽改修されて，博物館地区やガソメータ地区が出現したのです。

もっとも，ウィーンの歴史的市街地のすべてに手が加えられているわけではありません。特にギュルテル環状道路沿いには整備の遅れた帝国時代の住宅が多く立地しており，トルコ人やロマなどエスニック集団の生活空間にもなっています。

この巡検では，ウィーン市街地のコントラストに触れるためリンク環状道路の内側の歴史的中心地と，外国人が集住するインナーシティ的色合いが強いギュルテル環状道路沿いを歩きました。観光客の集中するケルントナー通りと，イスラーム系の商店が並ぶブルネン小路。短い滞在でしたが，この街の多面性を体感するに十分だったように思われます。

ウィーンのリンク環状道路にて：ウィーン大学本館前の学生たち